



令和5年度第2回寒川町総合計画審議会
委員同士の議論テーマ
“地域で子育てするコミュニティの活性化”

2023年11月13日



- ・ テーマ選定
- ・ 寒川町総合計画2040における位置づけ
- ・ 子育て環境の現状
- ・ コミュニティの必要性
- ・ 寒川町の子育て環境
- ・ 委員同士の議論の仕方

	委員間で議論するテーマ候補	票数
1	基本目標5「時代に最適化したにぎわいのあるまちづくり」と自治基本条例まちづくりの指針「子育て環境の整ったまちづくり」を実現するために	2
2	「人口減少予測に対する寒川町の人口確保策」 具体的に寒川町の魅力、特長を明確にし、魅力ある寒川町をどうしたら作れるかを議論したい 若者が集まる町にするには？／子育て世代が集まる町にするには？／高齢者が安心できる町にするには？	1
3	少子高齢化と人口減の社会にどう対応していくか	2
4	寒川の魅力度を上げて、寒川に移住してもらうためには	0
5	まちの魅力向上と認知度の向上	0
6	将来都市構造（にぎわい交流創出ゾーン／都市未来拠点／生活中心拠点／産業集積拠点）を中心とした、内界(常住町民)/外界(流入人口・観光人口) ステークホルダー及びターゲットカスタマーへの、ハードウェア/ソフトウェア/サービスの構想創出について。	2
7	※その他（会長に一任）	1

■ テーマについて

地域で子育てするコミュニティの活性化

■ 選定理由

票数がほぼ同数という結果となりました。

案2、案3については、ほぼ同内容のテーマとなりますので、案2、案3をベースとし、その他の案については、この大きなテーマの中で議論いただくことが可能なことから折衷案としてテーマを決定させていただきました。

テーマが大きすぎると結論に向かって議論するのが困難なため、いただいたテーマ案やまちの将来像、総合計画策定時のワークショップの内容などを踏まえ、地域で子育てするコミュニティの活性化をテーマにしました。

■ 議論内容

人口減少社会に対応するため、まちの将来像「つながる力で新化するまち」を踏まえ、「地域で子育てするコミュニティの活性化」について、地域団体ができることを検討するとともに、それらを支える行政のサポート議論してください。

■ まちの将来像「つながる力で 新化するまち」

つながる力により、チャレンジ精神にあふれ、前向きで成長を実感できる状態を目指す理想の状態と考え、様々な社会経済環境の変化の中にあっても、新しく生み出しながら進んでいくこととしています。

■ 基本目標「まちづくりのための基盤づくり」

まちづくりの基盤となる「ひと」のつながりの創出や持続的かつ健全な行財政運営を進めます。今後見込まれる急激な社会環境の変化の中において、まちづくりの大きな原動力となる「ひと」のつながりを積極的に創出し、また、その時代に最適な選択を行うことのできる持続的かつ健全でありながらも柔軟な行財政運営を推進することで「新化するまち」を実現し、町民のこころ豊かな暮らしを目指します。

■ 政策「つながる力の促進」

新化するまちを実現するためには、多様な「ひと」のつながりとそこから生まれる「モノ・コト」とのつながりを活用することによって新たな視点や価値観を生み出す必要があります。

このため、地域における新たな“コミュニティ”の創出や町民と町とのコミュニケーションの円滑化を進めていきます。

施策「子育て支援の充実」

【施策目標（目指す姿）】

子育てする人が「安心して子育てができる」と実感している。

↑ 事務事業に取り組み
施策目標を実現する

【目標指標】

子育て支援センター利用者の満足度（%）
保育所待機児童数（人）
児童クラブ待機児童数（人）

事務事業「子育て支援事業」

【事務事業の目標】

子育てする人が、育児不安を感じることなく子育てしている。

【取組概要】

子育て支援センターを拠点に、育児不安を抱えた家庭に対し相談や見守り、情報提供等を行います。ファミリーサポートセンターにおいて、多様化・複雑化する保育ニーズに対応します。

【目標指標】

子育て支援センター利用者数（人）

「安心して子育てができる」ようさまざまな施策を実施していますが、地域の中で孤立した親が課題となっています。

■施策「子どもの育ち・発達の支援」

【施策目標（目指す姿）】

子どもが心身ともに健やかに成長している。

↑ 事務事業に取り組み
施策目標を実現する

▶ 【目標指標】

児童虐待受理件数（件）

養育支援訪問事業対象家庭数（家庭）

ジュニアリーダーズクラブ会員数（人）

■事務事業「青少年健全育成事業」

【事務事業の目標】

青少年が異年齢や多様な人々との交流を経て、
健やかに成長している。

【取組概要】

子どもまつりや小学生体験学習の実施、ジュニア
リーダーズクラブの活動支援、子ども議会などの
取組を行います。。

▶ 【目標指標】

青少年健全育成事業の参加者数（人）

「子どもが心身ともに健やかに成長
できる」ようさまざまな施策を実施
していますが、地域の中で孤立した
親が課題となっています。

■ 合計特殊出生率

全国的に出生数、合計特殊出生率が減少している。
人口を維持するには合計特殊出生率が2.07必要である。

■ 共働き世帯

全国的に共働き世帯が増加している。

■ 育児休業取得率

全国的に男性の育児休業取得率は増加傾向にあるものの、10%前半にとどまっている。

■ 核家族化

核家族化というよりは、単独世帯が増加している。
データで見るとそれほど核家族化は進んでいない。
夫婦と子ども世帯は、1980年から比べると世帯数はそれほど変化していない。
ただ、郷里を離れて都市に移り、新たに世帯を構えた核家族は、近隣に血縁者が存在しない孤立した核家族という点が課題である。
またひとり親も増加傾向にある。

■ ひとり親世帯

全国的に母子世帯が増加している。
全国的にひとり親世帯の収入や貯蓄は低い。

■ 妊産婦死亡原因

妊産婦の死亡原因は、自殺が最も多い。（東京都23区）
妊産婦の自殺の時期は、妊娠中と産後にそれぞれピークがある。
このピークへの対応は自治体や病院で対応すべきではある。
しかし、他の時期でも妊産婦が不安を抱えるなどの問題があると考えられる。

■ 昔の子育て風景

子どもが多かった昭和20年代の風景を見るとまだ地域コミュニティが機能していた。母親たちは洗濯物を干す手を少し休めながら、近隣の“ママ友”と子どもや子育てについて、悩みを語り合ったり、おしゃべりを楽しんでいた様子。子育てについて相談できる人や環境が周囲に自然にあったように思われる。現代は地元を離れる方が多くなるなど、このような環境が失われたため、子育て支援センターやサークルなどで地域のつながりをつくる必要があります。

■ 地域でのつきあい

母親の地域での子どもを通じたつきあいは減少している。このデータは古いものであるため、現在はデータで示すことはできないが、同様の状況であることが想定される。

■ 地域での子育て肯定感

子どもにとっての良質な環境要素として、子育て肯定感が重要で、地域でのつきあいが、子育て肯定感を向上させる1つの要素となっている。

■ 合計特殊出生率が高い沖縄県

子ども・子育てを大切にしようとする価値観・意識は非常に強い。女性人口に対する産婦人科医数が全国平均よりも多く、妻の職場において子育てに対する理解度が高い。

ただし、親との同居率は低く、持ち家率も比較的低く、小児科医数は少なく、医療費に対する負担感が高い。雇用も安定していない。

調査結果から、子どもを産み育てやすくしているいくつかの要因が見出された。そのひとつめが、「親族・地域の絆」である。子育てする親が支援を受けることができる相手が多いほど、子育てはしやすくなる。

沖縄県は、地域のきづなが強く、子育てしやすい環境にある。

■ 分野横断的な対応

子育て（ひとり親）以外にも分野横断的に対応が求められている課題が多い。

■ 地域共生社会をつくるための重要な要素

属性を問わない支援

能動型支援

居場所づくり

デジタルの活用

ライフスタイルなどに応じて参画しやすい仕組みを検討する必要がある。

得意分野を生かせる支えあい

■ 地域での付き合い

地域での付き合いの程度については、若い年代の方は、深い関りは望んでいない。そのため、特定の場所をつながりをつくろうとしてもその場に来てくれない。子育て支援センターは素晴らしい施設ではあるが、来てくれないと支援できない。若い年代の方が来る場所へ出向く（アウトリーチ）ことも必要。

子育て支援センター

フリースペースの利用

10時～12時、13時～15時

休館：土日祝日・年末年始・第3月曜日午後

相談／イベント実施（おはなし会、えほんよみきかせ、おもちゃの病院、会員交流会など）

子育てサークル「はっぴいでいず」

毎週木曜日にさむかわ中央公園で活動

0～就園前の親子

年間を通じてイベントも実施

チューリップの会

第2・4火曜日10～11時

北部公民館

歩ける子～就園前の親子

会費：1人100円／回

会の流れ：はじまりの歌・絵本読み聞かせ・体験や工作・おわりの歌

■ ママを楽しむ会

第3水曜日 10～15時

大曲地域集会所

内容：見守り保育、ワークショップ、リラクゼーション

■ 子育てサロン

毎月1回 10～11時30分

町内在住の2から3歳の親子

対象児1人100円/回

■ 課題（仮説）

- ・ 土日に行ける場所がない
（子育て支援センターや町役場は土日休み）
（サークルは平日開催）
- ・ 来館／参加するにはハードルが高い
（若い人は地域での深い関りは望んでいない）
（会員になる必要がある）

→ 共働き、母ひとりor父ひとりで 初めての場／グループに
飛び込まなければならない。

共働き、ひとり親、郷里を離れて暮らす若者が増えたことで、親の孤独化が進み、子育てが困難になっている。
→その結果、少子化や妊産婦の自殺増につながっている可能性がある。

そのため、地域で子育てをするコミュニティの必要性が高まっている。
行政支援が届かない層は、地域で孤立化している可能性が高い。
それは特別なケースではなく、一般化してきている。

そのような状況の中、行政では子育て支援センターを設置するなどさまざまな支援をしている。
また、数年前から民間でもサークルなどができ地域で子育てするコミュニティができてきている。

しかしながら、若者のニーズとしては地域と深い関りは望んでいない。
総合計画策定のワークショップでも深い関りは望んでいなかった。
一方で、浅い多様なつながりを求めている方は多くいた。

子育て世帯が地域とつながるきっかけとして、所属が不要な浅く多様な「つながり」を提供するために地域で子育てするコミュニティを活性化していくことで子育てしやすい若者に選ばれる地域とすることができると考える。

■ テーマについて

寒川町なら地域で子育てする風土がある。安心して子育てできる。
寒川町に住もう／行こう／働こうと思ってもらえるような

“地域で子育てするコミュニティの活性化”

■ 議論内容

人口減少社会に対応するため、まちの将来像「つながる力で新化するまち」を踏まえ、就学前の子ども（その親）をターゲットに「地域で子育てするコミュニティの活性化」について、地域団体ができることを検討するとともに、それらを支える行政のサポートについて議論してください。

- ・ 他自治体でやっている取組の紹介
- ・ 寒川町の地域でどんなことができるのか
- ・ そのために寒川町役場に支援してほしいこと

■ 議論 “しないこと”

- ・ 行政の直接的な子育て施策について
- ・ 小学生や中学生の子育てに関すること

■ 進め方（進行：菊地会長）

- ① 4人以内のグループに分かれて「議論」 (45分) 14:30～
- ② 各グループで「意見を集約」 (10分) 15:15～
～休憩～
- ③ 各グループで町への提案内容を「共有」 (20分) 15:35～
- ④ 各グループの共有を踏まえ「ブラッシュアップ」 (10分) 15:55～
- ⑤ 審議会として、町へ提案する「内容の精査」 (25分) 16:05～

■ 議論のルール

- ・ お互いに話を受け取る。
- ・ 意見を否定しない。
- ・ みんなで時間を分かち合う。

■ 議論の進め方

- ・ 司会進行役を決める。
- ・ 司会進行役はメンバーの公平な発言機会をつくる

